

令和2年度

社会福祉法人長野りんどう会

事業報告

令和3年6月

目 次

項 目	ページ
はじめに	1
一 法人運営	2
二 各サービス事業の実績	
1 指定生活訓練事業(フレッシュとくま)	9
2 指定宿泊型訓練事業(フレッシュとくま)	10
3 指定生活介護事業(フレッシュとくま)	12
4 指定短期入所事業(フレッシュとくま)	14
5 指定就労移行支援事業(ワークス上駒)	15
6 指定就労継続支援B型事業(ワークス上駒)	17
7 指定就労定着支援事業(ワークス上駒)	19
8 地域活動支援センター事業(スローステップ)	20
9 指定一般相談支援事業(相談室)	22
10 指定特定相談支援事業(相談室)	23
11 指定障害児相談支援事業(相談室)	24
12 指定共同生活援助事業(グループホーム)	26
13 指定自立生活援助事業(自立生活支援室)	27
14 指定居宅介護事業(ヘルパーステーションてくてく)	29

はじめに

令和2年度はまず、コロナの影響を受けた一年でした。宿泊型訓練施設（フレッシュとくま）は新規利用者が入所して来ず、収入減になりました。就労継続支援B型事業（ワークス上駒）では屋内作業の土産品加工の受注が大幅に減少しました。しかし、ワークス上駒ではこれを機に開設当初からの理想であった“地域へ出向いて”の作業（屋外作業）を促進する方向に転換を図りました。また、法人としてすべての事業において感染対策に大変気を配る年となりました。行事の実施を控え、食事も分散化を図るなど生活スタイルを大きく変えました。

また、法人として新たに居宅介護事業（ヘルパーステーションてくてく）を開設しました。精神に障がいのある皆さんは既存のヘルパー事業では支障も多くなかなか馴染めない方が多いという現状がありました。そこでてくてくでは、精神に障がいのある皆さんを主として事業を進めていきたいと考えております。併せて既存の事業についても、求められているサービスの現状に即して柔軟に対応すべく定員の変更をしました。

そして、今までストップしていた第3次3ヶ年計画の計画立案に向け、検討会議を重ね完成をさせました。今後法人の指針となっていく計画というところで管理者のみで作成するのではなく、日々現場を回している副施設長や主任にも関わってもらい創り上げました。障害者総合支援法の改訂が定期的になされる中で法人として安定した収入に繋げ、職員が日々意欲をもって支援に当れるよう考えました。

また、以前から計画していたワークス上駒とスローステップの土地を購入しました。今後安定的な事業運営の一助として、役立てていきたいと考えています。

一 法人運営

1 会議等の開催状況

(1) 評議員会(2回開催)

- R2. 定時 R2. 6. 29 令和元年度決算及び事業報告
R3. 3 月 R3. 3. 22 令和3年度事業計画及び資金収支予算、定款の変更

(2) 理事会(3回開催)

- 第88回 R2. 6. 3 令和元年度決算及び事業報告、管理運営規程の改訂、令和2年度定時評議員会の招集、議案等
第89回 R2. 10. 14 法人の今後の業務執行、理事長及び常務理事の職務執行状況報告
第90回 R3. 3. 10 令和3年度事業計画及び資金収支予算、定款の変更、管理運営規程の改訂、評議員候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の開催、重要な職員の選任解任、理事長及び常務理事の職務執行状況報告、令和3年3月評議員会の招集

(3) 監査

- R2. 5. 26 令和元年度事業及び会計処理全般の監査

(4) 施設運営会議

- ・開催回数 48回(毎週水曜日午後定例開催)
- ・構成員 正副理事長、常務理事、施設長(管理者)、事務長

2 法人運営事務

(1) 規程等の制定、改訂

- ・定款の変更 第90回理事会 令和3年3月評議員会
- ・管理運営規程の改訂 第88回理事会 第90回理事会
- ・経理規程の改訂 第90回理事会

(2) 役員等の研修状況(主なもの)

- ・管理者向け虐待防止・権利擁護研修 スライド自習(11/2~2/26) 長野県 3人
- ・虐待防止・権利擁護研修会(10/30、2/19) 長野市 4人
- ・介護処遇改善・特定処遇改善はこう使う!(2/17) webセミナー 1人

(3) 登記関係

- ・資産総額の変更 (R2. 6. 30 登記申請)

(4) 協定・賃貸借契約等関係

- ・長野市有財産賃貸借契約、ワークス上駒分(合意契約8カ月分 4月~11月)
契約終了日 R2. 12. 1 当年度分 557,376円

- 断 ・長野市有財産賃貸借契約、スローステップ分（合意契約8カ月分 4月～11月）
 契約終了日 R2. 12. 1 当年度分 267, 482 円
- 断 ・長野市有財産賃貸借契約、ワークス西駐車場分（契約期間3年）
 契約日 H28. 4. 1(面積変更 R2. 12. 1) 当年度分 613, 604 円

 - ・「いなだの家」建物賃貸借契約(20年契約)
 契約日 H16. 4. 14 月 130, 000 円
 - ・「のくとまーる」当初の建物賃貸借契約（自動更新）
 契約日 H24. 3. 26 月 150, 000 円
 - ・「のくとまーる」の定員増分及び207号(物置)の建物使用貸借契約（自動更新）
 契約日 H24. 9. 25 月 140, 000 円
 - ・「こまざわハウスサテライト」Fドエル104号（契約期間2年）…満了
 契約日 H30. 9. 13 月 30, 000 円
 - ・「こまざわハウスサテライト」徳間コーポ202号（契約期間2年）…満了
 契約日 H30. 9. 14 月 30, 000 円
 - ・「いなだの家サテライト」パークハイム東和田205号（契約期間2年）…満了
 契約日 H30. 9. 14 月 31, 000 円
 - ・「のくとまーるサテライト」グランステージ長野101号（契約期間2年）
 契約日 H30. 9. 14 月 33, 000 円
 - ・駐車場賃貸借契約 第2駐車場分（自動更新）
 契約日 H26. 4. 1
 契約変更 H28. 6. 1（一部返還） 変更後 月 18, 000 円
- 断 ・「こまざわハウスサテライト」Fドエル204号（稲田）
 契約日 R2. 9. 1（契約期間2年） 月 30, 000 円
- 断 ・「こまざわハウスサテライト」イーストビレッジB棟103号（北堀）
 契約日 R2. 9. 1（契約期間2年） 月 35, 000 円
- 断 ・「いなだの家サテライト」レジデンスKURASAWA306号（石渡）
 契約日 R2. 9. 1（契約期間2年） 月 30, 000 円
- 断 ・職員勤怠管理システム関連
 クロノクラウド等サービス 月額 16,500円（R3. 1～支払）
 契約日 令和2年9月9日 契約先 (株)ミロク情報サービス
- 断 ・自動販売機設置協定（本部・ワークス上駒に各1台設置）
 販売手数料＝1月の総売り上げの18%
 協定日 令和3年3月5日 協定先 ダイードリンク(株)
- (5) 業務委託等の契約

 - ・廃棄物処理委託定期契約（宝資源開発(株)） H24. 6. 11（契約）
 H31. 2. 1（覚書） 月 14, 740 円

- ・清掃業務委託契約（ワークス上駒分）（㈱サニクリーン甲信越）
 - H27. 4. 1（自動更新） 年 218, 160 円
 - （本館分）（㈱サニクリーン甲信越）H28. 9. 1（自動更新） 年 403, 700 円
- ・小型エレベーターメンテナンス契約 ワークス上駒（㈱ナソニックホームエレベーター㈱）
 - H23. 4. 1（自動更新） 年 111, 100 円
- ・荷物昇降機保守点検契約（㈱カリアトコーポレーション）H13. 2. 1（自動更新） 年 74, 800 円
- ・自動ドア保守管理業務委託契約（本部・ワークス上駒）
 - （㈱長野ナブコ）H30. 6. 1（自動更新） 年 158, 400 円
- ・受水槽清掃保守点検契約（㈱三京） H25. 9. 1（自動更新） 年 33, 000 円
- ・警備契約（新日本警備保障㈱）
 - 本館 H26. 2. 10（契約期間 5 年間） 月 9, 900 円
 - こまざわハウス, いなだの家 H26. 2. 15（契約期間 5 年間） 月 15, 070 円
 - のくとまーる H26. 2. 10（契約期間 5 年間） 月 10, 780 円
- ・消防用設備保守点検契約
 - スローステップ分（ホーチキ㈱） H23. 4. 1（自動更新） 年 48, 400 円
 - 本館分（ホーチキ㈱） H28. 4. 1（自動更新） 年 264, 000 円
 - ワークス上駒分（㈱ナショナル防災） H23. 4. 1（自動更新） 年 49, 500 円
 - こまざわハウス（新日本警備保障㈱） H26. 3. 1（自動更新） 年 22, 836 円
 - いなだの家（新日本警備保障㈱） H26. 3. 1（自動更新） 年 37, 708 円
- ・ホームページ運用サポート契約（㈱ディーエスブランド）
 - H28. 12. 26（1 年更新） 年 55, 000 円
- ・コピー機保守契約 本部（㈱蔦友）
 - H29. 9. 14（5 年間） 白黒 1 枚 2. 1 円、カラー 14 円
- ・コピー機保守契約 ワークス上駒（㈱蔦友）H25. 11. 15（5 年間）
 - 1 セット 45, 100 円/5 千枚
- ・健康診断委託契約（財）全日本労働福祉協会）H13. 1. 17（自動更新）
 - （R2 年度実績） 35 人 354, 692 円
- 業務 IT 化支援（岸本アドバイザー） 860, 662 円
 - デジタル化促進事業の準委任契約（業務委託内容：現状整理、アドバイス、書類作成支援）中小企業庁 IT 化補助金事業活用のための中小企業デジタル化応援隊の定める「準委任契約」によるもの

(6) 業務 IT 化推進状況

- ・メール、カレンダー等 Google サービスの導入
- ・PC データ、会計ソフト、給与ソフトのクラウドへバックアップ導入（災害時対応）
- ・勤怠システムの導入及び給与システムとの連携

- ・現金決済からクレジット決済への導入
- ・公用車・会議室管理(Google カレンダー予約)導入
- ・ワークスの作業時間管理及び工賃算定等導入
- ・ケース記録データ入力等検討

3 施設及び設備整備事業について(新規契約)

(1) 固定資産購入等の契約

(取得)

- ・給付費請求ソフト (ワイズマン) 令和2年4月6日 3,115,200円
- ・給付費請求ソフト (ワイズマン) (居宅介護分) 令和2年9月4日 313,000円
- ・GH(いなだの家)サテライト建物賃貸借敷金 レジデンス KURASAWA306号
令和2年9月1日 30,000円
- ・GH(こまざわハウス)サテライト建物賃貸借敷金 イーストビレッジB棟103号
令和2年9月1日 35,000円
- ・GH(こまざわハウス)サテライト建物賃貸借敷金 Fドエル204号
令和2年9月1日 30,000円
- ・職員勤怠管理システム関連
 - タイムレコーダー (本部とワークス=2拠点2台設置) 990,000円
 - 給与ソフト (勤怠システム連携バージョンアップ) 1,058,200円
 - 契約先 ㈱ミロク情報サービス 契約日 令和2年9月9日
- ・会計ソフトサーバー リコージャパン(株) 令和3年3月22日 1,322,310円
- ・ノートパソコン (4台)
 - (相談) 1台 令和2年11月10日 116,270円
 - (相談) 1台 令和2年11月10日 116,270円
 - (事務) 1台 令和2年11月10日 104,720円
 - (事務) 1台 令和2年11月10日 122,650円
- ・ワークス/スローステップに供している土地
 - 長野市上駒沢429-1 令和2年11月17日 67,000,000円
 - 長野市上駒沢401-16 令和2年12月14日 15,000円
 - 長野市上駒沢402-7 令和2年12月14日 6,300円
 - 長野市上駒沢401-15 令和2年12月22日 475,500円
- ・スローステップ建物及び東物置
 - 長野市上駒沢429-1 令和2年11月17日 330,000円

(2) 施設整備及び設備整備の契約 新規対象なし

4 資金の状況について(R3. 3. 31)

・ 寄附金収入	2,748,020 円
・ 当年度資金収支差額	11,518,660 円
・ 当年度施設整備等資金積立額	1,130,000 円
・ 年度末施設整備等積立金総額	1,130,000 円
・ 年度末純資産総額	548,785,920 円
・ 年度末借入金残額	14,742,000 円

5 人事管理について

(1) 職員の資質の向上と公正な人事管理を目的とした人事管理システムにより次のとおり実施した。

ア 人事考課（業務管理）の実施

前期（4月～9月）業務の自己評価と施設長による評価を行った。

(2) 雇用状況について(R2. 4～R3. 3)

- ・ 採用 正職員 2 人 、嘱託職員 新規 2 人
非常勤職員 新規 2 人 継続 1 4 人
- ・ 退職 正職員 0 人 、嘱託職員 1 人 、非常勤職員 1 人
- ・ 3 月 3 1 日在籍職員数（3 月末退職者含む） 4 2 人
正職員 2 6 人 、嘱託職員 2 人 、非常勤職員 1 4 人(内当直職員 5 人)

6 職員研修について

職員研修実施要綱（基本計画）に基づき、「令和 2 年度研修計画」を策定して計画的な職員研修を行った。なお、コロナ禍で対面からオンライン研修に切替わり減少した。

(1) 内部研修

- ・ 各事業所内での O J T による研修の実施（新規職員等）（年間）
- ・ 朝の職員連絡会議で内容報告（毎日）
- ・ 各事業所単位ミーティングで伝達研修（週 1 回）
- ・ 月例職員会議での職員周知のための伝達講習（月 1 回）
（R2. 7. 1 法令遵守要綱並びに法令遵守心得を策定し、職員会議で周知伝達研修実施）
（ヒヤリハット事例等報告伝達講習実施）

(2) 外部での一般研修受講

- ・ 受講した研修等の項目と延べ日数 24 項目・57 日
- ・ 研修等受講者延べ数 57 人
- ・ 一人当たり平均研修日数 1.0 日
- ・ 24 項目研修開催地 長野市内 12、長野市以外県内 1、県外 0、オンライン 11

7 施設及び事業経営について

(1) 障害福祉サービス事業者の新規指定

・居宅介護・重度訪問介護事業 令和2年8月1日指定

(2) 施設等の経営状況

① 指定生活訓練事業（フレッシュとくま）

・日中 定員 6人 日平均利用者数 6.8人
 ・宿泊 定員 17人 日平均利用者数 11.1人

② 指定生活介護事業（フレッシュとくま）定員 17人 日平均利用者数 15.3人

③ 指定短期入所等事業（フレッシュとくま）定員 3人

*自立体験事業・私的利用を含む 日平均利用者数 1.6人

④ 指定就労移行支援事業（ワークス上駒）定員 6人 日平均利用者数 2.9人

⑤ 指定就労継続支援B型事業（ワークス上駒）定員 34人
 日平均利用者数 35.6人

⑥ 指定就労定着支援事業（就労定着支援室）定員 なし
 月平均登録実人員 3.7人

⑦ 地域活動支援センターⅢ型（スローステップ）定員 15人
 日平均利用者数 14.6人

⑧ 指定一般相談支援事業（相談室） 地域移行支援利用延べ月数 8月
 地域定着支援利用延べ月数 64月

⑨ 指定特定相談支援事業（相談室）
 サービス等利用支援 247件
 継続サービス等利用支援 541件

⑩ 指定障害児相談支援事業（相談室） 相談延件数 11件

⑪ 指定共同生活援助事業（グループホーム）定員 25人
 日平均利用者数 21.7人

⑫ 指定自立生活援助事業（自立生活支援室）定員 なし
 月平均登録実人員 2.7人

⑬ 指定居宅介護・重度訪問介護事業（ヘルパーステーションてくてく）
 定員 なし
 月平均登録実人員 7.9人

(2) 事故等の状況 保険請求分 3件
 転倒事故 3件

(3) 防災・安全対策

・地震台風等災害のための消火・避難訓練

フレッシュとくま 12回、ワークス上駒 2回、スローステップ 2回、
 グループホーム（いなだの家・こまざわハウス・のくとまーる 各2回）

- ・消火設備等の点検 2回実施（専門業者に委託）

- ・感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、利用者及び職員等の検温記録、3密回避、マスク、手洗い、消毒等の徹底、施設内の感染防止として非接触型手指消毒機設置、水栓蛇口コックのレバー取替、職員のコロナ特別休暇の創設等実施した。

8 その他

- ・会報誌（No60～No61）の発行
- ・年報（令和元年度版）の発行
- ・地域、行政、関係団体、地元組織等との連携協力を努めた。（コロナの影響により減少）
- ・長野市障害者自立支援協議会（長野市障害ふくしネット）への参加協力をした。
- ・視察や見学・学生実習・職員研修生等を受け入れた。（コロナの影響により減少）
長野大学2名、高崎福祉医療カレッジ2名実習生

二 各サービス事業の実績

1 指定生活訓練事業 (定員6人) (フレッシュとくま)

年間実利用者数は、34人で、作業所への通所や宿泊型退所につき17人が解約した。
一日の平均利用者数は6.8人でした。フレッシュ全体の利用希望者の比率に合わせて定員を減らした。

利用者各々の今後の生活に必要な事を支援することで、自信に繋げた。

また、2人に訪問訓練を行った。

(1) 重点事項

ア その人らしい生活ができるよう、自主性・自発性の尊重

イ 新型コロナウイルス感染予防の徹底

ウ 利用者の確保による経営の安定

(2) 取り組み

ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援

(ア) 3ヶ月ごとに振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。

(イ) 個人の目標がぶれないよう、今やるべきこと・目指すべきことを利用者と常に確認した。

イ 新型コロナウイルス感染予防の徹底

(ア) 手洗い、消毒の徹底

(イ) 毎日の健康チェックの実施

(ウ) 定期的な換気と館内の消毒

ウ 利用者確保する

(ア) 年間を通し医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。

(イ) ホームページでの情報発信をした。

(ウ) 必要な利用者への送迎を行った。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	2,453	10.1	36	12
令和2年度	1,634	6.8	29	17
比較	△819	△3.3	△7	5

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	17	16	14	16	15	13	10	11	11	15	15	15	14.0人
開所日数	21	18	22	21	19	20	22	19	20	19	18	23	242日
延利用者数	182	141	153	167	147	134	103	117	94	101	130	165	1,634人
平均利用者数/日	8.7	7.8	7.0	8.0	7.7	6.7	4.7	6.2	4.7	5.3	7.2	7.2	6.8人
平均利用日数/人	10.7	8.8	10.9	10.4	9.8	10.3	10.3	10.6	8.5	6.7	8.6	11.0	9.7日

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者、サービス管理責任者、生活支援員、訪問支援員、看護師

まとめと課題

- ・日中訓練の場を本部4階からスローステップ2階へうつし事業をおこなったが、生活の場を離れたことで活動にメリハリがいった。
- ・個別支援計画に基づき、各自の目標がぶれないよう確認しながら目標達成に繋がった。
- ・生活訓練から作業所への移行がスムーズにできた。
- ・来所が困難な利用者には、訪問して相談、アドバイスをした。
- ・定員を減らし、午前中をグループ活動とし、午後を個別支援の時間としたことで、より個別の目標への支援に繋がられた。

資料 (令和3年3月31日現在)

障害福祉サービス支給市町村

(人)

性別 数	長野市	千曲市	須坂市	飯綱町	飯山市	筑北村	山の内町
男 6	2	0	1	0	1	1	1
女 6	4	1	0	1	0	0	0
計 12	6	1	1	1	1	1	1

2 指定宿泊型訓練事業 (定員 17人)

(フレッシュとくま)

一日の平均利用者数は11.1人でした。

利用者のうち14人が退所した(自宅が2人、アパートが4人、グループホームが6人、入院2人)また、新たに自宅から4人、病院から6人、グループホームから1人が入所した。

(1) 重点事項

- ア 利用期間の長短にとらわれない考え方のもとで、個人に合った生活スタイルで地域での新たな生活への展開の検討
- イ 相談支援事業所、医療機関、行政等との連携による利用者確保

(2) 取り組み

- ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援
 - (ア) 3ヶ月ごとの振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。
 - (イ) その人にあった地域生活ができるように支援した。

- イ 利用者の確保
 - (ア) 年間を通して医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。
 - (イ) ホームページでの情報発信をした。

- ウ 安全で衛生的な環境への配慮
 - (ア) 新型コロナウイルス感染予防の徹底のため、食事の時間をずらし、また、対面で食事をとらない座席の配慮をした。
 - (イ) 毎日2回の検温を実施した。
 - (ウ) 換気・マスク着用の徹底をした。
 - (エ) 防災設備の定期的な点検、維持を行った。
 - (オ) 防災訓練を年2回実施した。
 - (カ) 生活の場にふさわしい快適な環境を提供した。

- エ 地域との交流
 - (ア) 地産地消推進員との交流の場を設けた。

(3) 実績

ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	4,914	13.5	24	8
令和2年度	4,045	11.1	24	14
比較	△869	△2.4	0	6

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	16	16	14	15	13	11	8	9	9	9	11	11	11.8人
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	472	472	413	394	384	297	246	257	250	274	269	317	4,045人
平均利用者数/日	15.7	15.2	13.8	12.7	12.4	9.9	7.9	8.6	8.1	8.8	9.6	10.2	11.1人
平均利用日数/人	29.5	29.5	29.5	26.2	29.5	27.0	30.8	28.5	27.7	30.4	24.5	28.8	28.5日

(4) 職員体制 (R3.3.31)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 地域移行支援員 看護職員 調理員
宿直者

まとめと課題

- ・4人がライフサポートりんどうのグループホームに転居し、2人が他事業所のグループホームに入所した。
転居のタイミングは、グループホームの空き室との関係で調整した。
- ・2人が自宅への退所であったが、宿泊型での生活環境や対人関係になれずに、訓練が達成しないまま退去となった。
- ・入所が本人の希望というよりは、退院して住む場所がない、自宅に居られないため入所するという理由が多いため、訓練の意義が見いだせない人にどう支援していくのか。
- ・きめ細かく関係者を招集して、成果や課題を共有していく。
- ・入所期限にこだわらず、個別に支援していく中で入所の意味やフレッシュでやるべきことを確認できた。

3 指定生活介護事業 (定員 17人) (フレッシュとくま)

一日の平均利用者数は15.3人でした。利用希望者が多いため定員の見直しをし、増やした。

日中過ごす場所として利用希望者が増加している。体操やストレッチで健康維持の支援をしたり、血圧や体重測定を行うことで体調不良を早期発見できるようにした。軽作業も取り入れ、活動にメリハリをつけた。

(1) 重点事項

- ア 健康維持と体調管理をして、安定した地域生活ができるよう支援
- イ 生活の充実とやりがいを見出す支援

(2) 取り組み

ア 体調維持

- (ア) 看護職員による健康チェック、健康体操
- (イ) 入浴、洗濯、食事の支援
- (ウ) 軽作業の生産活動

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	2,869	10.8	38	4
令和2年度	4,005	15.3	44	3
比較	1,136	4.5	6	△1

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	21	18	24	28	26	27	27	29	29	29	31	33	23.8人
開所日数	21	18	24	23	21	22	24	21	23	21	20	23	261日
延利用者数	304	302	370	334	316	308	373	338	332	335	306	387	4,005人
平均利用者数/日	14.5	16.8	15.4	14.5	15.0	14.0	15.5	16.1	14.4	16.0	15.3	16.8	15.3人
平均利用日数/人	14.5	16.8	15.4	11.9	12.2	11.4	13.8	11.7	11.4	11.6	9.9	11.7	12.7日

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 嘱託医 看護職員

まとめと課題

- ・新規の契約者が昨年より9人増え、ほとんどの人が継続利用となっている。体調不良で通所できなくなった人が3人いた。
- ・看護師による健康相談や、緊急時の対応がスムーズにできた。
- ・軽作業に取り組むことで、活動にメリハリがついた。
- ・入浴支援等で清潔保持がより一層できるようになった。
- ・欠席者が毎日数人あることを考慮して定員を若干オーバーした受入体制を整えているが、通所日には安定して通えるようにしたい。
- ・送迎希望者が増え、送迎ルートと時間の調整が複雑になっている。
- ・利用者像として、清潔の保持が難しい人や、内科疾患への対応等、高齢者施設での支援に

近い対応が求められてきている。

資料（令和3年3月31日現在）

年代別数 (人)

性別 数	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 23	1	3	10	9
女 17	2	2	6	7
計 40	3	5	16	16

障害支援区分別数 (人)

性別 数	区分2	区分3	区分4
男 24	13	10	1
女 16	11	5	0
計 40	24	15	1

4 指定短期入所事業（定員3人）（フレッシュとくま）

（地域移行・自立生活訓練事業・私的利用を含む）

一日の平均利用者数は1.6人でした。

宿泊型訓練の体験利用だけでなく、定期利用者を受け入れした。

(1) 重点事項

ア 緊急利用も受け入れられる体制

イ 個々のニーズに対応

ウ 行政、医療機関、長野市障害ふくしネット等との連携

(2) 取り組み

ア さまざまな利用目的に対応し受入れをした。

イ 家族、ケアプランナー、病院のワーカーとの連携をした。

ウ 病院からの地域移行の体験利用で受入れをした。

(3) 実績

ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	実利用者数
令和元年度	753	2.1	35
令和2年度	591	1.6	23
比較	△162	△0.5	△12

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	56	32	64	63	38	56	53	47	48	55	47	32	591人
平均利用者数/日	1.9	1.0	2.1	2.0	1.2	1.9	1.7	1.6	1.5	1.8	1.7	1.0	1.6人

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者 支援員

まとめと課題

- ・定期利用者に対して、各々の利用目的に合った支援ができた。
- ・体験利用者については入所を視野に入れた形で、活動の予定を立てた。

5 指定就労移行支援事業（定員6人）（ワークス上駒）

令和2年度は、一般企業等への就労者を2人出すことができた。

就労アセスメントを8人に行い、アセスメント前から一般就労を目指すより、B型希望もあったため、6人がワークス上駒B型の利用者となった。

1日平均利用者数は2.9人と前年度より減少した。

(1) 重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 就労に向けて知識及び労働習慣等習得のための支援
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 就労に向けて関係機関と連携した支援
- オ 就労定着の充実

(2) 取り組み

- ア 3か月ごとの個別支援目標の振り返りや確認等行いステップアップを図った。
- イ ジョブガイダンスをハローワークに出向いて実施した。
- ウ 個別支援計画に基づき、実習を行った。
- エ 事業所見学等を実施した。
- オ 利用者個々の特性を生かして作業訓練を行った。

- カ 職場実習や施設外就労を通じ労働意欲の向上を図った。
- キ 企業等において継続して作業を実施し、就労のイメージを掴んだ。
- ク 就労関係機関や特別支援学校と連携を深め、就労支援に当たった。
- ケ 面接や電話による相談及び職場訪問を継続的に行った。
- コ ワークス内行事の実施（カンマッセでの食事会、福引等のお楽しみ会）

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	727	3	9	6
令和2年度	706	2.9	13	8
比較	△21	△0.1	4	2

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	18	22	21	19	20	22	20	20	19	18	21	241日
延利用者数	90	68	70	37	31	28	54	64	80	60	68	56	706人
実利用者数/月	6	5	4	2	3	3	3	4	5	5	5	4	4.1人
平均利用者数/日	4.3	3.8	3.2	1.8	1.6	1.4	2.5	3.2	4.0	3.2	3.8	2.7	2.9人
平均利用日数/人	15	13.6	17.5	18.5	10.3	9.3	18.0	16.0	16.0	12.0	13.6	14.0	16.9日
就労者数						1				1			2人

(4) 職員体制（R3.3.31現在）

管理者 サービス管理責任者 就労支援員

職業指導員 生活支援員

(5) 就職者の状況

(人)

人数/年度	令和元年度	令和2年度
人数	1人	2人

まとめと課題

- ・利用希望者は減少傾向だったが、実習の場の開拓や個々のニーズを尊重した職場実習と課題対応で就職者を出すことができた。
- ・面接での受け答え、履歴書の書き方等の就労学習会を設けた。
- ・課題解決等の面談時間を多く設けた。
- ・2年間の利用期限に捉われず、早目の就労を目指していく。

資料（令和3年3月31日現在）

年代別数 (人)

性別	数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代
男	2	0	1	0	1
女	1	0	0	0	1
計	3	0	1	0	2

6 指定就労継続支援B型事業（定員34人）（ワークス上駒）

1日平均利用者数は、令和元年度の32.4人から35.6人と、開所以来初めて定員を上回った。コロナの影響でお土産加工の室内作業が大幅減少したが、工賃確保の目的から室外作業を精力的に探した結果が工賃アップに繋がった。

また、室外作業をすることで、利用者さん個々の新たな作業能力を見い出せた。利用契約者数も増加した。

（1）重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 目標工賃達成指導員を中心に工賃アップと作業量の確保
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 長期利用者のニーズの確認と安定した利用に向けての支援

（2）取り組み

- ア 6か月ごとの個別支援計画の振り返りや目標の確認等行いステップアップを図った。
- イ 利用者への食事提供体制を整え、喫茶の収益増を図った。
- ウ 自主製品（弁当・おやつ等）の売上増を図るとともに魅力あるメニューの開発をした。
- エ 個々の利用者に合わせて作業訓練を行い、利用日を増やした。
- オ 利用者一人ひとり意欲的に作業が行えるよう働きかけをした。
- カ 通所できない利用者には、面接等を通してニーズを聴き、次の支援につながるよう働きかけた。
- キ 一人ひとりの利用時間を柔軟に設定するなどきめ細かな支援をした。
- ク 面接相談・電話相談などにより不調時の支援を行った。
- ケ ワークス内行事の実施（カンマッセでの食事会、福引等のお楽しみ会）
- コ 新型コロナウイルス感染予防の徹底
 - （ア）手洗い、消毒の徹底
 - （イ）毎日の健康チェックの実施
 - （ウ）定期的な換気と館内の消毒

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和元年度	7,733	32.4	54	7
令和2年度	8,586	35.6	57	6
比較	853	3.2	3	△1

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
日数	21	18	22	21	19	20	22	20	20	19	18	21	241日
延利用者数	650	621	813	774	699	719	785	689	715	669	644	808	8,586人
実利用者数/月	46	48	50	50	49	50	48	49	49	50	49	49	48.9人
平均利用者数/日	31.0	34.5	37.0	36.9	36.8	36	35.7	34.5	35.8	35.2	35.8	38.5	35.6人
平均利用日数/人	14.1	12.9	16.3	15.5	14.3	14.4	16.4	14.1	14.6	13.4	13.1	16.5	13.5日

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 職業指導員

生活支援員 目標工賃達成指導員 調理員

まとめと課題

- ・コロナによる感染予防と室内作業減少の対応策として、1日の利用を時間差で受け入れすることで、1日の利用者数を確保した。
- ・年間の時給平均は、令和元年の357円から419円と大幅アップした。
- ・個々の特性を活かした作業提供をしていく。
- ・地域との連携も強化できるような屋外作業の機会を通して、地域と事業所の絆を深める。
- ・高齢の利用者の今後の生活に向けて、別のサービスに繋げていく働きかけをしていく。
- ・新規利用者を増やせるように、見学・体験等を受け入れていく。

資料 (令和3年3月31日現在)

年代別数

(人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男 32	0	4	4	10	10	4
女 18	2	1	0	8	4	3
計 50	2	5	4	18	14	7

月別工賃支給状況

(小数点以下切り捨て)

月	支給人員 (人)	工賃支給金額 (円)	
		月平均額	月最高額
4	46	9.691	32.800
5	48	7.690	56.043
6	50	14.187	59.988
7・賞与	50	24.968	84.619
8	49	14.038	51.983
9	49	14.734	51.708
10	48	15.618	49.187
11・賞与	49	35.494	95.018
12	48	10.977	34.687
1	48	6.940	23.389
2	48	7.846	28.900
3・賞与	51	42.975	80.374
年間平均額		(R 2年度) 17.294 円	(R 元年度) 16.324 円

7 指定就労定着支援事業 (定員なし) (ワークス上駒 就労定着支援室)

2年目を終えることができた。

体調不良による退職者が1人あったため、登録者は3人となった。

(1) 重点事項

- ア 就労定着支援計画に基づいたサービスの提供
- イ 月1回以上の対面による面接等の実施
- ウ 月1回以上の企業訪問
- エ 企業・関係機関・家族等との連絡調整

(2) 取り組み

- ア 目標を決めて個別支援計画に反映した。
- イ 月に1度の面接日を決めて実施し、家や職場での様子を聴いた。
- ウ 生活面での聞き取り等で通院の勧めや生活費について改善を促した。
- エ 企業を訪問して、職場での様子から困っていること等を伝えた。
- オ 職場環境がより働きやすくなるよう心掛けた。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	契約者数	新規利用者数	解約者数
令和2年度	4	0	1

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	18	22	21	19	20	22	20	20	19	18	21	241日
延べ支援回数	6	6	10	7	6	7	5	6	5	4	4	5	71回
登録実人数/月	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3.7人

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

施設長 サービス管理責任者 就労定着支援員 職場適応援助者

まとめと課題

- ・事業主、関係機関との連絡調整等も行ったが、体調不良により1人が退職した。
- ・職場訪問、面談等で職場でのコミュニケーションの取り方や生活面への助言を行い、必要に応じて関係機関と連携した。
- ・今後登録者を増やしていく。
- ・県のチャレンジ雇用（3年間）修了者を次のステップに繋いでいく。

8 地域活動支援センター事業（Ⅲ型）（定員15人）（スローステップ）

令和2年度は支援者が組むプログラムなどをやめ、主に利用者が自由に憩える場の提供を行った。利用登録者や利用延べ人数は減っているが、固定の利用者が自分の生活に合わせ施設を利用するスタイルが確立しつつある。

地域に暮らす障がい者の利用する事業所として地域活動で側溝掃除などは継続している。

今年度は感染症対策として換気や消毒などこまめに行った。

(1) 重点事項

- ア 法定サービスでは対応できない自由に憩える場の提供
- イ 利用者同士の交流やピア活動の場の提供
- ウ 相談等個別の支援

(2) 取り組み

ア 基礎的事業

(ア) 交流室利用者（来所者） 3,463 人

(イ) 創作・生産活動

（木工、手芸、ぞうり作り等） 414 人

イ 機能強化事業

(ア) 来所相談 168 人

(イ) 電話相談 564 人

(ウ) 地域ボランティアの受け入れ 63 人

(カ) 地域交流事業

地区清掃 15 人

(3) 実績

ア 開所日数 238 日

イ 利用契約者数 69 人 (R3.3.31 現在)

ウ 年度比較 (人)

	延べ利用者	1 日平均利用者数	新規契約者数	解約者数
令和元年度	4,460	18.7	7	21
令和2年度	3,463	14.6	3	3
比較	△997	△4.1	△4	△18

エ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	13	17	22	21	19	21	21	21	21	21	18	23	238 日
延べ利用者数	222	280	359	359	309	286	298	288	240	242	251	329	3463 人
平均利用者数/日	17.1	16.5	16.3	17.1	16.3	13.6	14.2	13.7	11.4	11.5	13.9	14.3	14.6 人
平均利用日数/人	4.9	6.1	8.3	7.3	6.4	6.0	7.3	7.0	6.0	6.5	5.0	6.0	6.4 日

オ 障害福祉サービス支給決定市町村

(人)

須坂市	3	信濃町	2	千曲市	3	小川村	1	飯山市	1
麻績村	1	新潟県	1	飯綱町	1			長野市	56

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

施設長 支援員 (常勤・専従) 専門職員 (常勤・兼務)

まとめと課題

- ・利用登録者、利用延べ人数は減っているが、各々のニーズに合わせた定期利用者はおり、利用者確保はできた。
- ・感染症対策として換気や消毒を欠かさず行い、利用者自身が感染しないための対策や行動についても確認した結果、感染者を出すことはなかった。
- ・令和元年度に大きく事業変更したが、それによる影響で利用継続が出来なくなるような利用者はいなかった。

9 指定一般相談支援事業（地域移行支援事業・地域定着支援事業）（相談室）

地域移行支援で関わりを始めたが、コロナの影響で医療機関からの外出などが制限され予定通りに支援が進んでいかないことが多かった。当初令和2年度内で終了となる予定であったが令和3年度に繰り越されるケースも出ている。

今年度も地域定着での緊急対応はなかった。緊急での対応はなかったが、精神的に不安が強くなり連絡をしてくるようなケースもあり、もしもの時の相談先として必要な支援となっている。

（1）重点事項

- ア 精神科病院等と連携しての地域移行支援の実施
- イ 相談者主体の地域移行支援の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- ウ 関係機関との情報共有、連携強化

（2）取り組み

- ア 地域移行支援（地域移行支援計画の作成等、地域生活移行のための相談、外出同行、障害福祉サービスの体験利用、体験的な宿泊支援）
- イ 地域定着支援（地域定着支援台帳作成、連絡体制の確保、緊急時の状況把握・対応等）
- ウ 連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

（3）実績

- ア 地域移行支援

	利用実人数	利用延べ月数	継続支援者数
令和元年度	3人	11か月	0人
令和2年度	5人	8か月	0人
比較	2	△3	

イ 地域定着支援

	利用実人数	利用延べ月数	緊急時支援
令和元年度	9人	65か月	0回
令和2年度	6人	64か月	0回
比較	△3	△1	

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者 相談支援専門員、地域移行・定着支援員

まとめと課題

- ・地域移行支援では、令和2年新たに5名の支援を行った。宿泊型訓練に2名、自宅に1名退院に至らなかった方も2名いた。
- ・コロナウイルスの影響で、病院内で安定し退院のため地域移行支援開始の段取りを取ったが、直後病院内で感染者がでたり、外出が制限され感染者状況を見ながら…と先送りになっている方もいる。
- ・地域定着支援では利用者数に変更はない。緊急時対応はなかったが、日中の出来事を悩み不調になった…との電話相談などに対応している。

10 指定特定相談支援事業（相談室）

- ・専任2名、兼務6名の相談支援専門員でサービス等利用計画の作成を行った。
- ・令和2年度から相談支援専門員の現任研修について実際にサービス等利用計画作成を行った者等条件が付いたため相談支援専門員の資格がある職員は担当を持った。
- ・それぞれの利用者のニーズをしっかりと聞き取り、それにあった福祉サービスにつなげるため、関係機関と連携し対応した。

(1) 重点事項

- ア 基本相談支援としての総合的な相談支援の実施
- イ ケアマネジメントの手法による、質の高い計画相談支援の実施
- ウ 相談者主体の相談の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- エ 相談支援を実施するため、関係機関との情報共有・連携強化

(2) 取り組み

- ア 生活全般に関わる一般的相談、電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整
- イ サービス等利用計画の作成（サービス利用支援、継続サービス利用支援）
- ウ 専門性の更なる向上のため研修等に参加

(3) 実績

ア 相談

相談者数と障がい別延件数

	実人数	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合計
令和元年度	251人	32件	80件	189件	16件	317件 (重複あり)
令和2年度	256人	21件	49件	204件	13件	287件 (重複あり)
比較	5	△11	△31	15	△3	△30

イ サービス等利用計画

作成件数

(件)

	サービス利用支援	継続サービス利用支援
令和元年度	252	479
令和2年度	247	541
比較	△5	62

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者 相談支援専門員 障害程度区分調査員 (相談支援専門員と兼務)

まとめと課題

- ・令和2年度は専任2名、兼務6名の相談支援専門員体制で対応した。これまでの契約者は引き続き支援を継続できた。
- ・可能な限り新規利用者の受け入れをした。
- ・「モニタリング標準期間の見直し時期」の適応となりモニタリング回数が増えたため、収入増加となった。
- ・計画相談の終結もある為、可能な限り新規利用者の相談支援も受けていく。

1.1 指定障害児相談支援事業 (相談室)

令和2年度で障害児相談支援は終了の方向で考えていたため、担当していたケースについては障害児相談を行っている他事業所に利用者、家族の了解を得て繋いだ。

障害児相談支援事業は今年度で終了となる。

(1) 重点事項

- ア 相談者数は少数であるが、地域の社会資源として地域のニーズに応え、障害児相談支援を実施
- イ ケアマネジメントの手法による、質の高い障害児相談支援の実施
- ウ 相談者主体の相談の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- エ 相談支援を実施するため、関係機関との情報共有・連携強化

(2) 取り組み

- ア 個別相談（電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整）
- イ 障害児相談支援（障害児支援利用援助、継続障害児支援利用援助）
- ウ 専門性の更なる向上（研修、相談支援に関する連絡会への参加）
- エ 連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

(3) 実績

ア 相談

相談者数と障がい別延件数

	実人数	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合計
令和元年度	7人	3件	6件	0件	3件	12件 (重複あり)
令和2年度	6人	2件	6件	0件	3件	11件 (重複あり)
比較	△1	△1	0	0	0	△1

イ 支援利用援助

作成件数

(件)

	障害児支援利用援助	継続障害児支援利用援助
令和元年度	9	4
令和2年度	6	9
比較	△3	5

(4) 職員体制（R3.3.31 現在）

管理者 相談支援専門員

まとめと課題

- ・今年で成人になった利用者は引きつづき特定相談支援事業の支援を続ける。
- ・障害児の支援については、専門性の違いから困難事例も多く、年度当初より引継ぎ先を探し、利用者、家族も納得してもらえる事業所に繋ぐことができた。

1 2 指定共同生活援助事業（グループホーム）（定員 25 人）

指定共同生活援助事業（グループホーム）は以前に比べ、個別の支援が必要な方が増えている。栄養管理や金銭管理に加え服薬管理や生活支援など多様な支援が求められた。社協や訪問看護等の事業所と連携を図りながら支援を行った。また、入居者の高齢化が進みつつあり、保証人の問題も出始めている。

今年度グループホームからの退所者は7人で、内3人がサテライト型から一人暮らしに移行し、地域で一人暮らしを継続している。

新規利用者は5人で、うちフレッシュとくま（宿泊型訓練事業）からの入居者は3人であった。

世話人体制は利用者5人に対して世話人1人とし、看護師の配置により個別の体調管理を強化した。

（1）重点事項

- ア 居住の場の提供と日常生活においての必要な支援
- イ グループホームから次の生活の場への移行のための取組・援助
- ウ 退所後の安定した生活維持のための支援

（2）取り組み

- ア 日常生活について
 - （ア）調理、掃除、買い物、金銭管理、服薬確認等を補助した。
 - （イ）家族、日中活動先等の連絡調整を行った。
 - （ウ）対人関係、日常生活の不安や課題へ相談支援を行った。
- イ 地区交流事業について
 - （ア）地区の清掃事業に参加した（河川・側溝・公園・神社等）。
 - （イ）ゴミステーションの立ち合いを行った。
- ウ 日常支援について
 - （ア）日中世話人が住居を巡回して在宅の利用者の支援を行った。
 - （イ）午後3時頃からは、夕食準備の支援や相談等利用者の支援を行った。
 - （ウ）土、日、祝日も世話人を配置し食事の提供を行った。
 - （エ）看護師の定期訪問により健康管理に努めた。

（3）実績

- ア 年度比較（1日平均利用者数）

令和元年	20.8人	令和2年	21.7人
------	-------	------	-------
- イ 新規利用者 5人（フレッシュとくま 3人・家庭 1人・アパート 1人）
- ウ 退所者 7人（一人暮らし4人・家庭1人・入院1人・他法人のグループホーム1人）
- エ 利用者数 23人／定員 25人（R3.3.31現在）

(4) 職員体制 (R3.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 (世話人兼務) 世話人・支援員 看護師

まとめと課題

- ・入居者一人ひとりの生活力 (ADL) に差があり画一的な支援では足りず、個別の対応を求められた。
- ・生活の質 (QOL) を高めようと考えての支援を実施する中で入居者と支援者の間に温度差が生じることがあった。
- ・新規入居者の入所するまでの空き期間を減らすために、期間限定で体験入居の受け入れをした。
- ・老朽化したこまざわハウスについては新規建て替えに向け、補助金申請を行った。
- ・休日は見回りとお弁当で対応していた体制を、世話人を配置し食事提供をするようになった。
- ・新規建て替えが決定された場合にはグループホームの規模を含め、定員についても再検討が必要と考えられる。
- ・高齢化が進み、保証人がいなくなってしまう利用者が出てきている。成年後見人制度の利用を含めグループホームとしての対応を検討していく必要がある。
- ・グループホームの方向性として一人暮らしへ移行する通過型を取ってきたが、一人暮らしを目指せない方が増えてきている現実があり、グループホームの方向性についても今後どうしていくのか再検討が必要となる。

資料 (令和3年3月31日現在)

年代別数 (人)

性別 数	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
男 13	1	3	4	2	3
女 10	1	2	4	2	1
計 23	2	5	8	4	4

1.3 指定自立生活援助事業 (定員なし) (自立生活支援室)

今年度はサテライト型から本人契約に移行した方の他、宿泊型からアパートに移った方に対して支援を行った。日常生活の見守りや金銭管理等安定した一人暮らしの定着に向け支援を実施した。金銭管理についてはいずれも社協の日常生活自立支援事業に繋げるべく、手続きを進めている。

(1) 重点事項

- ・生活力・社会適応力を高め、安心して地域で生活できるような支援
- ・利用期間内にサービスの調整等を実施し、終了後の安定した生活の構築
- ・地域生活において生じる課題の解決に向け、取り組みを進め安定した生活が送れるような支援

(2) 取り組み

ア 状況確認について

(ア) 定期的な訪問・面接等により本人の生活状況を把握した。

(イ) 必要に応じ銀行や医療機関への同行を行った。

イ 相談について

(ア) 訪問及び面接時に困っていることや不安に思っていること等相談を受け、解決に向けて一緒に取り組んだ。

(イ) 利用終了時を考え必要なサービスの情報提供や手続きを行った。

ウ 関係機関との連絡調整を行った。

(ア) プランナーをはじめ、日中の利用施設など関係機関との連絡調整を行った。

(イ) 課題等の解決に向けての話し合いを開いた。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延べ契約者数	新規利用者数	解約者数
令和2年度	6	4	2

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	243日
延べ支援回数	10				16	27	24	22	22	29	27	31	208回
登録実人数/月	2				2	4	4	4	4	4	4	4	2.7人
平均利用者数/日	0.5				0.8	1.4	1.1	1.2	1.1	1.5	1.5	1.3	0.9人

(4) 職員体制(令和3.3.31現在)

施設長 サービス管理責任者 支援員

まとめと課題

- ・社協の日常生活自立支援事業は利用までに時間を要している現状である
- ・利用者側の必要性和支援者側の必要性に温度差を感じる

- ・人によっては利用開始時は毎日のように支援を行った。
- ・令和3年度から支援期間が1年から必要に応じて延長されることになった。それにより見極めを適切に行う必要性が出てくる。
- ・支援の必要性について利用者との間で共有することが大切になる。
- ・期間中に習得できなかった課題について、サービス提供の終了後何処に繋いでいくのか考えなければいけない。
- ・利用者確保をどのように進めていくのか考えていく必要がある。

1.4 指定居宅介護事業（定員なし）

令和2年8月から新規事業として開始した。

地域で暮らす障害者を支える支援として居宅を訪問し主に調理、掃除などの支援を行う。ライフサポートりんどうで行う居宅介護支援の特徴として精神障害の支援に特化しより専門的に体調を考慮した支援を行う。

利用者のニーズに合わせて支援し地域で安心して暮らせることを目指す。

(1) 重点事項

ア 安定した地域生活の継続

イ 利用者の日常生活及び社会生活の総合的支援

(2) 取り組み

ア 調理・洗濯・掃除・買物・通院介助・その他必要な援助を行う。

イ 必要に応じて健康や日常生活上の相談や助言を行う。

(3) 実績

ア 年度比較

	延べ契約者数	新規利用者数	解約者数
令和2年度	14	14	1

イ 月別利用実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均／合計
開所日数					20	20	22	19	20	19	18	23	161日
延べ支援回数					1	10	15	19	21	21	29	33	149回
登録実人数／月					1	4	5	8	9	10	13	13	7.9人
平均利用者数／日					0.05	0.5	0.7	1	1.1	1.1	1.6	1.4	0.9人

(4) 職員体制（令和 3.3.31 現在）

管理者、サービス提供責任者、支援員

まとめと課題

- ・令和2年度で14人の契約があった。
- ・精神障害に特化した支援のため、体調によってキャンセルもあったが、都度状態を確認しきめ細かに対応した。また入院によるキャンセルも数件あった。
- ・収入面ではまだまだ厳しいため、利用契約者を増やしていく必要はあるが、マンパワー的には対応が難しくなっている。